

トルコの農業政策を背景とした
ヘーゼルナッツの過剰生産に関する一考察

東京外国語大学トルコ語専攻 4 年

8507282 下中菜都子

2011 年 1 月提出

目次	
はじめに	3
第一章 トルコ農業の概観.....	4
(1) 生産動向.....	4
(2) 農林水産物貿易	4
(3) 農業政策の概要	5
(4) 生産物の買い取り支援と価格補助	6
(5) まとめ.....	6
第二章 トルコ産ヘーゼルナッツの概要	8
(1) 基本情報と種類	8
(2) 生育と収穫	8
(3) 加工	9
第三章 黒海地方とヘーゼルナッツの関係.....	11
(1) 黒海地方におけるヘーゼルナッツ産業.....	11
(2) 農家の経営	12
(3) 報道文に見る収穫の光景	13
(4) まとめ.....	15
第四章 トルコの農業政策におけるヘーゼルナッツ	16
(1) ヘーゼルナッツ売却協同組合(Fiskobirlik)について	16
(2) 農産物公社 (TMO) について.....	17
(3) 流通の過程	17
(4) ヘーゼルナッツ価格決定の様子	18
(5) まとめ.....	21
第五章 過剰生産の実態	23
(1) 生産	23
(2) 消費	24
第六章 ヘーゼルナッツ・プロモーション・グループの活動	26
(1) 組織概要	26
(2) 世界における活動の具体例	27
結論	29
参考文献	30

はじめに

トルコはヘーゼルナッツの生産・輸出において世界一である。生産に必要な気候を備えており、全世界の生産量の 75% を、輸出量の 70~75% を占めている。従って食品そのもの、また関連産業は同国に大きな影響を与えている。実際、直接間接に約 400 万人が、トルコの 55~60 万ヘクタールの地域で生産されるヘーゼルナッツに関わっている。¹

しかし、近年その過剰生産が問題となっている。毎年、消費・輸出しきれないほどのナッツが生産され、多くの場合国の機関が買い取りを行っている。余ったナッツは備蓄されて売り物にならないこともあれば、油に加工され、安い価格で販売されることもある。また、国の予算不足でナッツが買い取られなかった場合、農家の人々は収入を得られないことになる。これはトルコの社会・経済にとって大きな損失である。²

そこで本稿では、ヘーゼルナッツの過剰生産の実態について考察したい。主な資料として、トルコの新聞記事や、買い取りを行ってきたヘーゼルナッツ売却協同組合(Fiskobirlik)がインターネット上に公開しているデータを用いる。

第一章でトルコの農業について概観した後、第二章でヘーゼルナッツの種類、生育、加工について説明したい。第三章では、ヘーゼルナッツ産業が黒海地方の経済、文化においてどのような役割を持っているか検討する。そして第四章で、ヘーゼルナッツの流通の仕方や政府による価格決定など、産業を農業政策というより大きい枠組みに位置づける。改めて第五章でグラフによって過剰生産の実態を確認した後に、政府によるヘーゼルナッツ振興策を第六章で紹介する。以上により、トルコの農業政策をふまえつつヘーゼルナッツの過剰生産の実態を考察することが、本稿の目的である。

¹ FTG ホームページ (http://www.ftg.org.tr/devam_tur/turkiye.htm)

² 2002 年 9 月 3 日 Milliyet 紙

<http://www.milliyet.com.tr/~milyon-findikci-fiyat-bekliyor/gungor-uras/ekonomi/yazard-etayarsiv/05.11.2010/58554/default.htm>

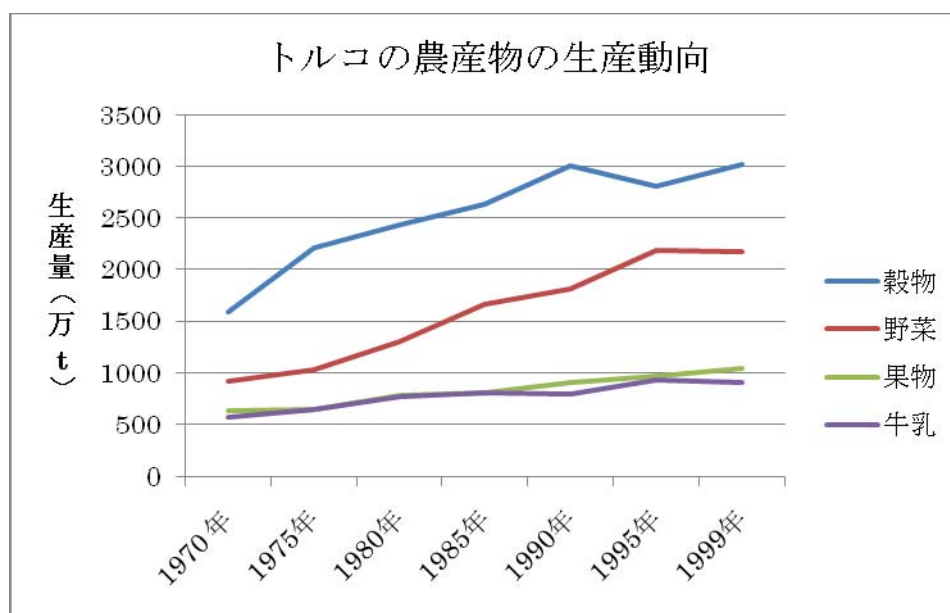
第一章 トルコ農業の概観

(1) 生産動向

2005 年のデータによると、トルコの総人口 7319 万 3 千人のうち 1499 万 4 千人が農業人口であるという。これは人口の約 20.5%を占める数値である。ちなみに、アメリカの農業人口は全体の 0.9% (2005 年)、日本のそれは 2.4% (2008 年)、イタリアは 1.8% (2008 年)、サウジアラビアは 2.4% (2005 年) である。³従ってトルコでは、農業に従事する人の割合が他国に比べて相対的に大きいといえる。

経営規模別の農家戸数は 5ha 未満の農家が全体の 68%を占めているが、これら小規模農家の所有する面積は全体の 2 割程度に過ぎず、年々零細化が進んでいる。これは遺産相続の際に、農地が均等配分されて相続されるためである。

1970 年以降、穀物・野菜・果実・牛乳の全ての生産量が増加傾向にあるが、特に野菜の増加が著しい。穀物の中でも主要な小麦はアナトリア南東・東部で生産されている。南東部を中心に大麦が、南部ではトウモロコシが生産されている。地中海沿岸地方ではかんきつ類、オリーブの栽培が盛んである。西部アナトリア地方では肉牛や乳牛の飼育が行われており、気候の厳しい中央部・東部アナトリア地方では羊の放牧が行われている。⁴



(2) 農林水産物貿易

1970 年代には総輸出額の 81.8%が農産物によって占められていたが、80 年代に入ってトルコの工業化が進むにつれて、その比率は相対的に低下し、90 年代には 24.1%、98 年に

³ 農林水産省ホームページ (<http://www.maff.go.jp/>)

⁴ 日本貿易振興会編『トルコの農業』海外農業・貿易情報提供委託事業、2001 年 3 月、7 頁

は 17.8%にまで縮小した。しかし農業生産自体は 80～90 年代には年平均 3%の伸びを示しており、農産物の貿易収支は黒字を計上している。

ちなみにトルコと日本の貿易について、全体では日本の輸出超過が続いているが、農林水産物貿易では輸入超過が続いている。我が国はトルコからトマトピューレ・ペースト、たばこ、かつお・まぐろ類⁵を輸入している。特にヘーゼルナッツの 99.7%はトルコからの輸入によるものである。同じく、トマトピューレ・ペースト、乾燥あんずでは約 3 割のシェアを占めている。一方、日本からは配合調整飼料、播種用の種、真珠等を輸出している。

6

（３）農業政策の概要

トルコは 1980 年から第一次構造調整計画を実施して以来、市場の自由化、農業補助金の削減、貿易障壁の除去、そして世界経済を視野に入れた一連の農業政策改革を進めてきた。この結果、農産物輸出の競争力が高まり、生産高及び貿易額が増加してきた。こうした動きの中で、トルコの農業は長年にわたって政府による価格支持やその他補助金によって支えられてきた。しかし国内市場が未熟であった時期に必要であった農業に対するこれらの保護措置は、次第に政府の財源を圧迫するようになった。そして国際市場との価格調和が必要となり始めると、保護措置に対する改革の必要性が強調されるようになった。トルコは 96 年 1 月から EU と関税同盟を結んでいるが、一部の農産加工品を除いて、農産物は関税同盟の対象外となっている。

99 年にトルコは EU の加盟候補国入りを果たし、長年の目標である EU 正式加盟が現実味のあるものとして映りだした。そこでトルコは自国の農業部門を EU の規制及び貿易構造の枠内で調整する必要に迫られている。EU 正式加盟までに必要な改革と技術向上に取り組まなければならなくなったものである。また、国際通貨基金（IMF）のスタンバイ・クレジット⁷の中でも経済改革の一環として、農業改革の実施が条件となっており、これまで小麦をはじめとする主要穀物や肥料・農薬などを対象として行われてきた農業補助金の見直し（対象品目の削減、価格のインフレ率との連動、中小企業・農家に対する優遇貸付制度の見直し）が重要課題となってきた。

2000 年に入ってからトルコ農業省は①従来、農業補助金の対象とされながら余剰在庫を抱えるタバコ、てんさい、ヘーゼルナッツ、茶などの生産を抑制し、他の作物への転作を奨励（結果として収入が減った場合は政府が補償）、②統計目的の農家登録制導入、③農業補助は直接所得補償制度に移行（既に実施中）、④農業生産の原料や肥料等の投入基準については世界市場水準に連動させるなどの改革案を発表したが、政府買い取り価格の制限な

⁵ 農林水産省ホームページ (<http://www.maff.go.jp/>)

⁶ 日本貿易振興会編、前出、9 頁

⁷ IMF があらかじめ包括的な信用供与枠を設定し、加盟国にその限度内で行う融資。

どについてはその後の課題となった。⁸

（４）生産物の買い取り支援と価格補助⁹

トルコの農業政策において最も一般的な政策手段は、買い取り支援である。1932 年、小麦に始まり、1992 年には 26 の生産物について実行されている。支援対象の作物は 1960 年まで穀物、たばこ、てんさいなど、8 あるいは 10 種類にとどまっていた。1960 年代末、対象作物は 17 に増え、1970 年代には 22 へと増加したものの、1980 年代以降は減少し始め、1990 年には 10 作物となった。しかし 1991 年には、25 種類、1992 年には 26 種類へと増加した。

農業販売協同組合が買い取り支援を行った生産物について、1993 年には別の手段が試みられた。最低価格の代わりに、目標価格と安価な介入価格を組合に公表する。そして、生産物を組合あるいは市場に販売した農家は、両者の価格の差額を農業省や農業銀行の資金から回収していた。綿花に始まったこの試みはタバコ、茶、ヘーゼルナッツに適用されることが望まれた。

トルコでは一般に、家畜産業は買い取り支援の対象外となっていた。その生産物（肉、羊毛、アンゴラ毛、牛乳、卵）の価格支援は関税やその他の貿易障壁によって行われるのが普通であった。しかし 1986 年以後、牛乳を対象に制限を課した。1979 年と 1989 年には牛、羊に、1970 年代から羊毛、アンゴラ毛にも買い取り支援を適用した。

買い取り支援の次に一般的に用いられているのは、農業投資の価格に対する政府の介入である。関税の引き下げ、クレジット使用の誘導、所得税の控除、インフレ下におけるクレジットの提供は、価格補助の代表的なものである。過去に助成金によって補助された主な農業投資には、肥料、農薬、てんさいの種、機械の管理、スプリンクラー、餌、家畜の質改良といったものがある。

（５）まとめ

トルコは農産物の輸出国であり、主要な生産物は自給することができる。ただし、農業に従事する者の収入はそれ以外の職業に就く者の収入よりも低い。¹⁰これはトルコでは地主に有利な農業政策が採られてきており、小作人の地位が低いことと関連しているのだろう。

¹¹

⁸ 日本貿易振興会編、前出、8 頁

⁹ A.Halis Akder,&Haluk Kasnakoğlu, “Tarım” in *Cumhuriyet Dönemi Türkiye Ansiklopedisi* Cilt15, İstanbul : İletişim Yayınları, 1996, pp. 1339-1340.

¹⁰ 同上

¹¹ 鴨沢巖「トルコの農村社会と農地改革」護雅夫編『トルコの社会と経済』アジア経済研究所、1971 年、184 頁

また、農業の好調・不調は、政治が農業部門を保護するかどうかで決まってきたようである。補助金や買い取りといった公的支援は、国内市場が未熟であった時期には有効であった。しかし、そうした支援の対象となった農産物が必要以上に生産されることにより、余剰在庫をもたらし、国内財政を圧迫するようになった。このことは国際的にも認識されており、90年代からIMFにより、特に買い取り支援を対象に指導が行われている。

こうした買い取り支援の対象となった農産物の一つが、ヘーゼルナッツである。過剰生産の実態を探る前に、それがどのような植物であり、農産物なのかについて見ていきたい。

第二章 トルコ産ヘーゼルナッツの概要¹²

(1) 基本情報と種類

ヘーゼルナッツはハシバミという、カバノキ科の落葉小高木の実である。日当たりのよい山野に育つ。葉は円形で短い柄を持ち、先端は急にとがる。葉質は薄く下面に短毛を生じ、上面にしばしば紫色の斑点が出る。雌雄同種で、早春に葉の出る前に尾状の花穂を下垂する。雄の花穂は枝先に数本ずつつき、雌の花穂は小型の卵形で、枝の下方に上向きにつく。雌花は包鱗ごとに2個ずつつく。果実であるヘーゼルナッツは球状の堅花で、2枚の総包が鐘形になりそれを包んでいる。¹³

トルコ産ヘーゼルナッツには大きく分けて3つの種類がある。一つ目は丸形ヘーゼルナッツで、最高品質である。丸い形をしており、主な種類に「トンブル」（主な生産地：サムスン県、ギレスン県）、「パラズ」（サムスン県）「ミンジャネ」（ボル県、トラブゾン県）「フォシャ」（トラブゾン県）「カラフンドウック」（ボル県）等がある。高油分を含み、香りと味が優れているという。

二つ目は尖形ヘーゼルナッツという、細長い形で油分が少ないものである。丸形に比べて皮が剥きづらいという。「インジェカラ」（オルドゥ県）「クシュ」「スィヴリ」（ギレスン県、トラブゾン県）といった種類がある。生産地が限定されており、それ以外の場所では少量しか生産できない。

三つ目は長形ヘーゼルナッツであるが、殻むきに適していないことから国際的にはあまり消費されていない。収穫初期のものは生食用に消費されることが多いという。「ヤッスバデム」「ユワルラックバデム」が長形である¹⁴。

また、トルコのヘーゼルナッツは品質によって二つに大別されている。ギレスン・クオリティとレヴァント・クオリティである。前者はギレスン全域およびトラブゾンの一部の地域で栽培される丸々育ったものを指し、世界一の品質を誇る。最も皮が剥きやすいタイプとして知られている。後者はギレスン・クオリティに該当しない全てのヘーゼルナッツを指す。

(2) 生育と収穫

トルコ黒海沿岸に集中しているヘーゼルナッツ農園は、海岸から内陸に向かい遠くても30 km以内のところに存在する。西部のゾングルダックより（イスタンブル側から）黒海に沿い、海と山の間に緑色のベルトのように、グルジアとの国境まで延びている。北緯 36～

¹² 本章は主にトルコ・ヘーゼルナッツ協会ホームページ

(<http://www.turkish-hazelnut.org/>)、および Fiskobirlik ホームページ

(<http://www.fiskobirlik.org.tr/>) より。

¹³ フランク・B・ギブニー編、堀出一郎発行『ブリタニカ国際大百科事典』第5巻、株式会社ティビーエス・ブリタニカ、1988年、128頁

¹⁴ 尖形ヘーゼルナッツの「クシュ」と長形ヘーゼルナッツの詳しい生産地は、少量しか生産されないため表記されておらず、不明である。

41° の場所で独特の気候のもと育つヘーゼルナッツの木は、沿岸から遠くても 30 km 以内、高度 750～1000 メートル以下のところで育つ。

トルコでヘーゼルナッツを生産している地域は 2 つに分かれる。第一に、黒海地方東部のオルドゥ、ギレスン、リゼ、トラブゾン、アルトヴィンである。第二に、黒海地方の中央と西部のサムスン、シノップ、カスタモヌ、ボル、デュズジェ、サカルヤ、ゾングルダック、コジャエリである。

通常 8 月の初旬から下旬の間に実る。熟したヘーゼルナッツは、その枝が振られ、殻のついたまま地に落ちたところで収穫される。他の収穫のやり方に、枝から一つずつ集めていくものがある。ヘーゼルナッツは、収穫した日あるいは幾日か後に脱殻機に運ばれる。そこで 10～15 cm の厚みにそろえ、殻が茶色になるまで日光でしおれさせ、乾燥の前段階を行う。その後機械で殻を取り除き、薄皮の状態で日光にさらして乾燥させる。前段階を含め、天候の状態によって合計 15～20 日乾燥させる。自然の状態で乾燥させることが、おいしさの重要な要素である。

収穫期には人手が必要なため、7 月末から 9 月初旬にかけて、トルコの主に南東部から黒海に季節労働者が流入する。移動の時期には特別の列車も運行され、ヘーゼルナッツの収穫はトルコの年中行事のような位置づけとなっている。アナトリア南東部において働き口がないことや干ばつなどのために、ディヤルバクルやマルディン、シャンルウルフア、スィイルト、バトゥマンから、毎年何千もの人々が生活の糧を得るために、出稼ぎ労働者としてマルマラ地方や黒海地方に赴く。¹⁵

(3) 加工

現在トルコには年間 180 万トン进行加工する 180 の乾燥工場と、年間 35 万トン进行加工する 40 の処理場が存在する。1970 年にヘーゼルナッツの輸出量の 90% が殻付きで未加工の実の状態であったが、加工産業が発展した結果、加工済みヘーゼルナッツは 2000 年には総輸出量の 30% 以上に増加した。

トルコや世界中で消費されるヘーゼルナッツの約 90% は、煎って白くして、刻んで小さくして、粉末あるいはピューレ状で菓子や料理に使われる。

加工後の主な形状としては以下のような種類がある。

- ・ホール皮付き（ナチュラル）

殻を剥いた、一粒丸ごとの状態を指し、加工原料に使われる。香ばしさを出すために、ローストした網の上で転がしながら、好みの量の皮を残して利用することができる。

¹⁵ 2 ヶ月間、昼夜を問わず畑で働く出稼ぎ労働者は、日当 20～22 リラ（約 1280 円から 1400 円）の賃金を受け取る。また、出稼ぎ労働者にとって最も頭を悩ますのは、乗車賃の値上げだ。かつては一人あたり 10 リラ（約 640 円）だったのが 30 リラ（約 1920 円）になった。中には仕事を見つけられず、なすすべもなく帰路に就く家族もいるという。（2009 年 07 月 27 日 Radikal 紙 日本語で読む中東メディア

（http://www.el.tufts.ac.jp/prmeis/news_j.html）記事 ID:17052 参照）

- ・ホール（ブランチ）

上記のものの皮なしのことを言う。用途に応じてローストしたり、油で揚げたりして自在に香ばしさを出すことができる。主にチョコレートやスナックなどの加工製品やパンに使われる。

- ・ホール（ロースト）

ホールの皮なしをローストしたものである。そのままスナックとして、またお菓子やパン、料理のトッピングとしても使える。

- ・殻付き（生）

収穫後に天日乾燥させただけの、硬い殻の付いた状態を指す。そのままローストして殻を剥いて食べることで、個性的な香りを楽しむことができる。

- ・スライス（ナチュラル）

ホールを薄切りにしたものである。食べやすく、お菓子やパンのデコレーションに活用できる。シェフたちにも好まれているという。

- ・チョップド（ナチュラル）

粗く刻んだチョップドタイプ。粒々した食感が特徴的でお菓子やパン、料理のアクセントに適している。ビスケットやクッキー、アイスクリームなどにもよく使われる。

- ・ヘーゼルナッツミール（ナチュラル）

お菓子の生地やパン、クリーム、アイスクリームなどに混ぜ込んで利用すると、独特の豊かな風味とコクが広がる。

- ・ペースト（ダーク、ミディアム、ライト）

ローストの度合いが異なる 3 種類があり、香ばしい風味が抜群。糖分を加えたプラリネもある。ペーストはチョコとも好相性でアイスクリームやパンにもよく使われる。

ちなみに、殻はトルコで、特に生産地域では大変貴重な燃料として使われている。またヘーゼルナッツの木は、かご、杖、椅子、柵、小物を作るのに役立っている。一部の種類は公園や庭での観葉植物にふさわしい。葉は果物の包みや肥料となっている。余ったものは油脂としての価値が認められている。ヘーゼルナッツの天然の油脂は精練されて食用油に、こしたものは餌用の混合物となっている。

では、このように親しまれているヘーゼルナッツが生産される現場はいかなるものだろうか。そこで以下の章で、黒海地方におけるヘーゼルナッツ産業の位置づけを行い、農家の人々とヘーゼルナッツの関わりに焦点を当てたい。

第三章 黒海地方とヘーゼルナッツの関係

(1) 黒海地方におけるヘーゼルナッツ産業¹⁶

これまでも見てきたように、ヘーゼルナッツの生産は主に黒海沿岸を中心に行われている。生産面積についての 2008 年のデータによると、オルドゥ県(Ordu)が 277.8ha、アクチャコジャ県が 188.8ha、ギレスン県 (Giresun) が 106ha、トラブゾン県(Trabzon)が 68ha である。¹⁷ 詳細な経済統計データがトラブゾンについてのみ入手可能であった。そこで、ヘーゼルナッツ生産の社会的位置付けについての具体例として、トラブゾン県をとりあげる。

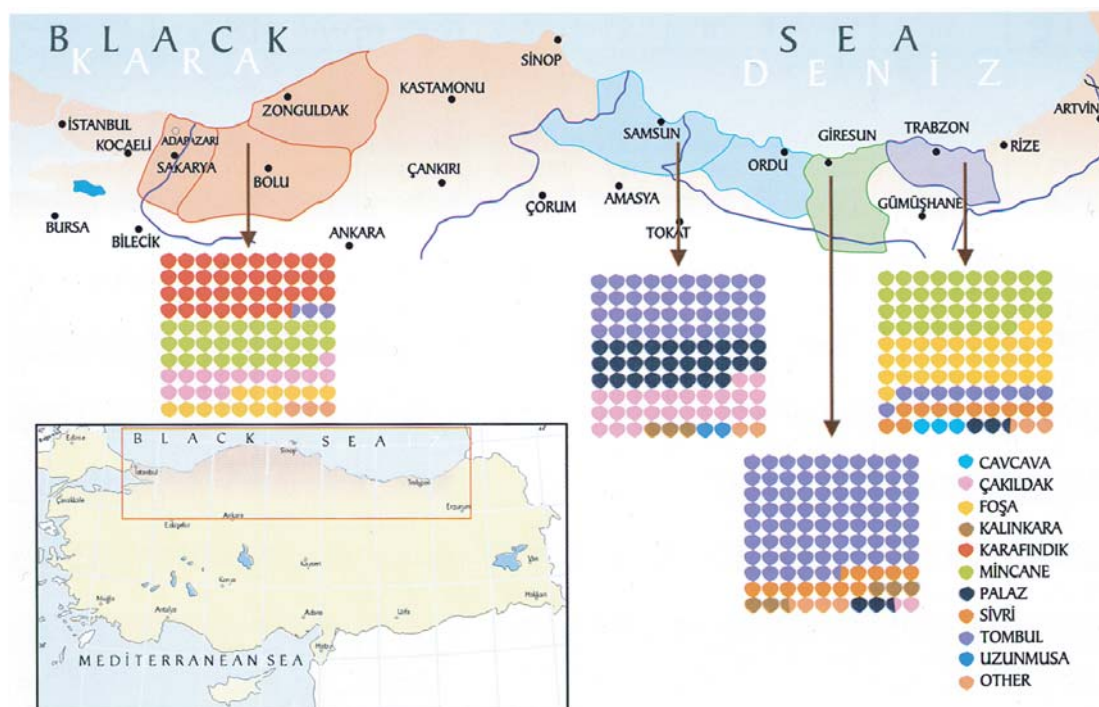


Figure 7.2. Distribution of hazelnut cultivars according to their growing counties.

地図：トルコ・ヘーゼルナッツ協会ホームページ (<http://www.turkish-hazelnut.org/>)

トラブゾン県におけるヘーゼルナッツの年間生産量は平均 5 万トンであり、全国総生産量の 11.5%を占めている。農地の 64.7%でヘーゼルナッツと茶が栽培されているというが、ほとんどはヘーゼルナッツが占めている¹⁸。穀物、トウモロコシ、豆については 23.7%、タバコ、じゃがいもは 7.5%、野菜は 7.5%である。ヘーゼルナッツ、茶、タバコ、魚介類以外の生産物は、家庭で消費されるために作られている。トラブゾンでは、農業の分野にお

¹⁶ トラブゾン県ホームページ (<http://www.trabzon.gov.tr/>)

¹⁷ Fiskobirlik ホームページ (<http://www.fiskobirlik.org.tr/>)

¹⁸ 上記資料からは両者の生産割合が明確に分からなかったため、Fiskobirlik の公開する数値とトラブゾン県の地理データにより独自に計算した。県の面積が 466,400ha、農地面積が 105,744 ha (県の総面積の 23%にあたる)、ヘーゼルナッツ畑が 68,000ha である。従って農地面積の 64.3%、県全体の 14.6%がヘーゼルナッツ畑であり、茶生産は農地のわずか 0.4%でしか行われていないことになる。

いて家庭内での経営が普通となっている。

2008 年のデータによると、トラブゾン県の人口 76 万 5127 人のうち 35 万 7024 人が農村で生活している。県人口の 65%が農業と牧畜から収入を得ており、商業、工業、手芸、運輸、建設などのサービス業に従事している者は人口の 35%である。農家一戸あたりの農地面積は平均 1.23 ヘクタールである。平均して一戸あたりの国民総生産（GNP）は 1 万 1007TL（約 62 万円）、一人あたり 2752TL（約 15 万 5 千円）である。

トラブゾン県の農業収入状況（2008 年データ）

収入源	収入(YTL)	割合
耕作	626.424.810 (約 353 億円)	66.19%
牧畜	190.224.646 (約 107 億円)	20.10%
水産	129.764.320 (約 73 億円)	13.71%
合計	946.413.776 (約 534 億円)	100%

トラブゾン県ホームページ (<http://www.trabzon.gov.tr/>) より作成

以上より、ヘーゼルナッツの生産がトラブゾン県において主要な産業であることが分かる。トラブゾン県の人口の 65%が農業に従事しており、その収入の約 66%が耕作から得たものである。農地面積の 64.3%でヘーゼルナッツが生産されていることから、この生産物がトラブゾン県における重要な収入源になっているとすることができるだろう。

ヘーゼルナッツ産業が経済的側面で黒海の人々にとって重要なものであるということは把握できた。それでは、実際に農家の経営はどのように行われているのだろうか。

（２）農家の経営¹⁹

トルコのヘーゼルナッツ園はたいてい家族経営で企業的な組織ではなく、小売には関わっていない。農家を構成する人数は多く、緩やかに統制されている。これについての調査によると、平均的な農家の家族は、ヘーゼルナッツ園に行くことができる、あるいは行く意思のある、3 人の労働世代人員を含んでいる。1, 2 頭の家畜を有し、通常それは乳牛と、台車を引く動物である。農家の人々のうち、58%が第二の職業を持ち、28%の農家が野菜、果物を育てて収入の足しにしている。農家のうち 12%は家畜を、49%は車を、24%は軽トラクターを所有している。現地の農業事務所から技術的な支援を受けているのはわずか

¹⁹ 本節は以下による。Ibrahim Demir, *The firm size, farm size, and transaction costs: The case of hazelnut farms in Turkey*, UMI Dissertation Publishing, 2008, pp.10-12.

26%である。平均的な家族の収入は約 1 万 6250 ドル、そのうち 7300 ドルはヘーゼルナッツ以外の収入である。

58%は収穫を家族のみで行う。収穫時には、離れて暮らしている家族が休暇を利用して故郷を旅しつつ、1 カ月の間続く作業にも参加することもある。41%が人を雇うが、まず近所の農家から人を雇う。その方が、必要とする指示、監督、動機づけが最小限で済むため、格段に望ましい労働力となるからだ。ほとんどの場合、彼らには賃金は払われないが、一日ごとに労働する者が交代する。この習慣はイメジェ (imece) と呼ばれている。

それでも人手が不足する場合、特に大規模な農家は、季節労働者を雇う。調査結果は、労働需要の 42%を満たすために季節労働者を雇う必要があると示している。彼らは専門的でも組織的でもないが、収穫時には他の時期に比べて大きな労働力が必要なので、一時的に雇う必要がある。ほとんどの場合、賃金は日払いとなっている。こうして、収穫の仕事を得るためにトルコ南部から大勢の労働者が移住するのだ。

(3) 報道文に見る収穫の光景

毎年夏に行われるヘーゼルナッツの収穫は、上で見たように家族、近隣住民、そして季節労働者総出の作業によっている。こうした収穫時の模様をトルコの新聞記事が伝えている。以下、引用する。

2010 年 7 月 30 日 Zaman 紙²⁰

ヘーゼルナッツの収穫が民謡と共に始まった

黒海地方でヘーゼルナッツの収穫が始まった。オルドゥ県アルトゥンユルト村では、「オルドゥの小川」や「永遠の故郷ウルファ」といった民謡を歌いつつ、希望と喜びと共にナッツを枝から収穫し始めた。

黒海地方のヘーゼルナッツ園で収穫が始まった。オルドゥで最初のナッツが、地元やウルファの民謡と共に収穫された。

オルドゥ県アルトゥンユルト村のナッツの枝から、「オルドゥの小川」や「永遠の故郷ウルファ」といった民謡が歌われながら収穫された。メフメト・イエシルユルトさんの子供たちは、義理の娘や孫たち、労働者と共に、列を作って一緒になって、同じ枝

²⁰ 2010 年 7 月 30 日 Zaman 紙

<http://www.zaman.com.tr/haber.do?haberno=1010409&keyfield=2066C4B16E64C4B16B20746F706C616D61>

から収穫した。

イエシルユルトさんは、新たな収穫の季節を迎えたと言い、市場から取り残されているヘーゼルナッツに対して政府が態度を決め、望ましい価格を示してくれることを期待していると述べた。

ヘーゼルナッツ園の所有者であるメフメト・イエシルユルトさんは、ウルフアからやって来た労働者を喜ばせるよう工夫していると語った。「彼らも私たちを満足させようと頑張っています。ご存じのようにここでは水不足が起こる場所ではありません。でも万が一病気になるのを防ぐために、私は彼らに瓶入りの水を渡しています。トルコ人かクルド人か、南東部の人か黒海の人か、なんて区別はありません。私たちはこの国を一つのものとして、一緒に作ったのですから。よくは知りませんが、悪口を言う人がごくたまにいますが、これは挑発したがる人々です。そんな人にはいてもらう必要はありません。騙されませんよ。」

ウルフアから 9 人の家族と共にヘーゼルナッツ収穫に訪れたエミン・アスランさんは「ここでは額に汗を垂らしながら働いているよ。そんな風にして働くのは何と気持ち良いことか。各地へ行っているが、暴力やトラブルは全く見たことが無いよ。ここに来るのも不安ではなく、穏やかな気分で熱意を持って来たんだ。今年場所は素晴らしいよ。よい仕事と賃金を期待している。ここでは皆一つで一緒なんだ。」と言った。

メフメト・チャンカさんは「家族を食べさせるためにここに来たよ。今年、軍に行く子供たちもいるんだ。その費用を稼がなければならない。出来る限りナッツ園で働いて、生計を立てようとしているよ。ここでは悪いことや、ひどい事態に出くわしたことが無いよ。」と話した。

以上の記事は、トルコ南東部でシリア国境付近のウルフアからやって来た季節労働者、そして彼らを受け入れるオルドゥ県のナッツ園所有者のインタビューを中心に構成されている。収穫の際にはそれぞれの地元の民謡が歌われているという。出身や年齢にかかわらず、歌いながら皆が一体となって作業している光景は、どこか日本の田植え、稲刈りを想像させる。

実際のところ、季節労働者にとってはナッツ収穫が生計を得る貴重な手段であり、それを文化としてとらえ、味わう余裕は無いかもしれない。しかし、収穫時に黒海に行くことを嫌っている様子は読み取れず、愛着を持っているようにも受け止められる。この報道から、ナッツ収穫が単なる労働としてではなく、年中行事のように位置づけられていると言えるだろう。

（４）まとめ

以上見てきたように、まずヘーゼルナッツは黒海の経済にとって重要な役割を有している。大部分の農家がそれを作っており、平均すると一家族の収入源の半分以上がヘーゼルナッツである。そして、ヘーゼルナッツは文化の面でも黒海にとって重要である。祝い事であるかのように収穫が行われるという²¹。季節労働者が特別列車に乗って黒海に訪れ、家族総出で作業する時期は、年中行事のようである。

ただし、問題点も存在する。農家のうち約 6 割が第二の職業を持っているので、黒海には兼業農家が多いということになる。一般に専業農家による大規模経営の方が、生産が効率化・集約化すると考えられているが、このような状況ではそれが進まないと考えられる。実際に、農業事務所から技術的な支援を受けている農家は約 4 分の 1 である。技術面での向上があまり無く、かつ先に触れたように、トルコはヘーゼルナッツの余剰在庫を抱えている。そんな中でも農家が生産を続けられるのは、政府の買い取り支援があるからだ。以下では買い取りを中心に、ヘーゼルナッツの流通や、政府との関係といった視点で見てみる。

²¹ FTG 配布の DVD による。(Post Production 作成、*Hazelnut Promotion Group*、2003 年)

第四章 トルコの農業政策におけるヘーゼルナッツ

(1) ヘーゼルナッツ売却協同組合 (Fiskobirlik)について

2006 年まで、農家がヘーゼルナッツを生産すると、それをヘーゼルナッツ売却協同組合 (Fiskobirlik) に売却していた。

この組合は以下のような過程を経て 1938 年に設立された。1935 年、経済省（当時）の後援の下、アンカラで第一回全国ヘーゼルナッツ会合が開催された。その約一ヶ月後には、第 2834 号、農業販売協同組合に関する法が発効した。この法律の目的は以下の通りである。

「農業生産の現場がいかなるものであっても、貿易に関する側面を重視すべきである。すなわち生産すること自体を目的にしてはならず、販売することを目的にすべきである。生産物を販売するにあたっては、効率的な条件のもと、国際市場が与える可能性を考慮することが必要である。販売されない、流通しない製品に金銭と労力を費やすことは、個人と国家の双方に損失を与える。」

3 年 8 カ月後、1938 年 6 月 14 日オルドゥに、同 17 日にギレスン、ブランジャック、ケシャップに、同年 7 月 7 日にトラブゾンに、協同組合が設立された。この 5 つの組合は同年 6 月 28 日、ヘーゼルナッツ売却協同組合 (Fındık Satış Kooperatifleri Birliği : 略称 Fiskobirlik) を立ち上げた。Fiskobirlik と関連組合は 1964 年まで、ヘーゼルナッツの購入と販売の数値目標を達成していた。しかしこれ以降は、内閣の価格決定と財務省の監督のもとでヘーゼルナッツの買い上げが行われた。²²

2000 年、IMF と世界銀行により、Fiskobirlik のうち 16 の農業販売協同組合が、国との関係を取り消された。これは同年 6 月 16 日に施行された第 4572 号農業販売協同組合に関する法に基づくものである。農産物価格の保護を目的に、政府がこうした組合に資金をつぎ込むことが不可能となったため、上記の措置がとられた。この試みには、4 年間の移行期間があった。その間に農業販売協同組合の新たなシステムを可能とするために、270 兆リラ²³（筆者注：旧トルコリラの数値である。日本円換算で約 146 億円。以下同。）の基金が設けられた。組合は、この基金によって生産物を購入し、それを売った後は、借金を利子と共に払う仕組みとなった。こうしてこの基金は 16 の組合を生かしてきた。2000 年には 104 兆リラ（約 56 億円）、2001 年に 63 兆リラ（約 34 億円）と、167 兆リラ（約 90 億円）の資金を Fiskobirlik は使ったのだ。しかし、債務と利子は今日まで払えていない。これに加えて、この基金は他の目的にも使用されていた。IMF と世界銀行は、上記の第 4572 号法律によって、他のところへ資金を流用させることも禁止していた。²⁴

以上のように、1960 年代に農業販売協同組合らがヘーゼルナッツ産業の経営に失敗して

²² Fiskobirlik ホームページ (<http://www.fiskobirlik.org.tr/>)

²³ トルコでは 2005 年、100 万分の 1 のデノミネーションが行われたため、現在の価値に換算すると 2 億 7000 万リラである。

²⁴ 2002 年 9 月 3 日 milliyet 紙

<http://www.milliyet.com.tr/~milyon-findikci-fiyat-bekliyor/gungor-uras/ekonomi/yazard-etayarsiv/05.11.2010/58554/default.htm>

以後、国家がそれを管理してきた。しかし、その管理はヘーゼルナッツ産業の健全化を目指すものではなく、売れないナッツを税金で買い取るという問題を先送りにするものであった。IMF と世界銀行による新規計画は、組合が独自にヘーゼルナッツの経営を行うよう指導するものであったが、これは失敗に終わったと言えよう。新たなシステムを構築するどころか、従来通りの方法によって債務を積み重ねていたからである。

（２）農産物公社（TMO）について

前述のように、IMF・世界銀行が Fiskobirlik に対して試みた計画も失敗におわり、2006 年夏、ヘーゼルナッツの買い上げが農産物公社 (Toprak Mahsulleri Ofisi : 略称 TMO) に委託されることとなった。²⁵

TMO の役割は、国内の穀物価格が生産者にとって低い状態、あるいは消費者である国民にとって不当に高い状態を防ぐことである。農産物市場を適正化するために、閣議決定に基づいて、穀物以外の農産物に関する役割を担うこともある。対象の生産物価格を市場で安定させることを目的に、毎年種類、地域ごとに決定された価格で購入・販売し、備蓄も行う。必要な場合には、海外から農産物を購入する。国内で購入した農産物を海外に流通させるための手続きや、それを海外に販売することも業務内容に含まれる。²⁶

2006 年以降、生産農家は TMO に対し、ナッツ売却について商談を行っていた。TMO は 1 日に 3000 トンのヘーゼルナッツを購入することができ、代金を遅くとも 25 日以内に支払うことを約束していた。この代金は国庫から支出されており、支払いにあたって国庫と財務省と話し合いをしていた。²⁷

（３）流通の過程²⁸

具体的にヘーゼルナッツは黒海地方から世界まで、どのように流通しているのか、先行研究によって見てみたい。

Fiskobirlik は農家からヘーゼルナッツを購入し、包装されていない状態で加工業者に売却する。彼らは製品を物理的に変化させることはしないが、加工業者のために生産者の代理人としての役割を持ち、表面的な信用取引を補完する。Fiskobirlik は収穫時以外と不作時には「特別購入協定」の約束の下、農家の金銭的な要求に応じる。ヘーゼルナッツを販売しきれない一方で、農家のそうした要求に応じることは、産業全体を借金の連鎖に陥れ、無計画な生産を招く。計画的な生産が行われない原因のもう一つは、Fiskobirlik の利益のほとんどが殻に基づいている（殻の量から中身の割合を計算する）ことである。測量に費用がかかり、不確実な数値が出てくるからである。

²⁵ 2006 年 8 月 8 日 Hurriyet 紙

<http://hurarsiv.hurriyet.com.tr/goster/ShowNew.aspx?id=4890130>

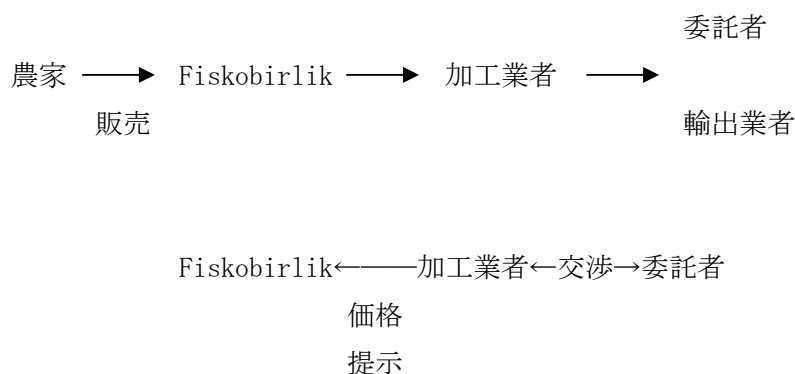
²⁶ TMO ホームページ (<http://www.tmo.gov.tr/>)

²⁷ 2008 年 11 月 8 日 Zaman 紙 日本語で読む中東メディア（前出）記事 ID:15081

²⁸ Ibrahim Demir, op.cit., pp.10-12.

加工業者はヘーゼルナッツの薄皮を剥くための小さな工場を所有している。彼らは皮のついたヘーゼルナッツを最小 10 トンから、国内市場すなわち委託者・輸出業者に売却する。農家の経営を支える Fiskobirlik を、金銭面で援助することを行う。ナッツを白く煎る施設を所有する加工業者もいるが、こうした加工業者の数は少ない。

加工業者と輸出業者を適合させるのが委託者の仕事である。委託の業務は通常一人で行われ、取引や金銭のやり取りを主な内容とする。市場は平日の午前 11 時半頃に開き、加工業者と委託者の交渉で価格が決められる。そうして最終決定した結果が、Fiskobirlik に提示する基本価格となる。



最終的にヘーゼルナッツの価格を決めるのは政府である。この決定には毎年曲折があり、特に国会議員の選挙を間近に迎えた時期には与野党間の攻防が激しくなるようだ。

（４）ヘーゼルナッツ価格決定の様子

以下の表にあるように、ヘーゼルナッツの価格は毎年変動する。この価格には、公的機関の買い上げ価格と市場価格の二つがあるが、毎年買い上げ価格が市場価格を上回っている。2005 年までは Fiskobirlik が、2006 年からは TMO が買い上げを行っていた。なお、原本においては 2003 年までデノミ以前の旧トルコリラの記載であったが、以下では便宜上、全て新トルコリラに換算して表を作成した。

	買い上げ量 (約・kg)	買い上げ価格 (TL/kg)	ドル建て	市場価格 (TL/kg)
2000	91,650,000	1.1	1.7	0.7～2
2001	128,860,000	1.5～1.625	1.05	1.4～1.9
2002	48,480,000	1.6～1.615	0.98	1.15～1.9
2003	8,040,000	2.5～3.05	1.85	2.2～5.05

2004	16,920,000	5.05～5.25	3.45～3.59	4.5～7.3
2005	50,990,000	7.05～7.45	5.27～5.57	2.2～6.5
2006	44,930,000	4.8～5(FKB), 3.8～4(TMO)	3.29～3.42, 2.62～2.76	2.6～4.4
2007	45,710,000	5～5.15	3.88～3.99	3.3～4.8

Fiskobirlik ホームページ (<http://www.fiskobirlik.org.tr/>) より作成

2007 年の場合、ヘーゼルナッツの買い上げ価格は政府と Fiskobirlik、TMO の交渉で 7 月上旬に決定された。2007 年 7 月 22 日はトルコの国会議員の総選挙日であった。よって、7 月上旬には黒海沿岸の村々にも各党の代表が訪れ、選挙運動を行っていた。ヘーゼルナッツの買い上げ価格の決定は選挙結果に反映すると見られており、公正発展党のエルドアン首相と民主党のメフメト・アアル代表（当時）の間に攻防が見られた。トルコの新聞報道では以下のように伝えられている。

2007 年 7 月 3 日 Zaman 紙

黒海で政治がヘーゼルナッツを決める²⁹

（前略）

国会議員の候補が選挙運動を始めてから村々を説得して回っている。反体制派からヘーゼルナッツの件で非難されていると考えるエルドアン首相は、黒海での初の会合をギレスンで行うことにした。昨年の反対運動を思い起こすと、昨日ギレスンで集まった人ごみの意味は考慮できる。その重要な一部は、エルドアンがヘーゼルナッツに関して言及することに興味を持って集まった人々だ。ギレスンの人々がヘーゼルナッツに大変重きをおいているので、町の中心部からしばしば「ヘーゼルナッツを思い出せ」と言う声が聞こえてくる。

（中略）

公正発展党党首エルドアン首相は、ナッツに関する発言を最後まで引き延ばした。首相はナッツの価格について述べる時、会合の広場が見える場所で、建物の高さほどの横断幕の方に眼をやった。メフメト・アアル（民主党党首）は横断幕に、「ヘーゼルナッツを 8 リラに」という表現を載せた。先週ギレスンに来た若者党のジェム・ウザン党首のしたような発言を思い出させた。首相は、まずこれが不可能であることを説明しようとした。「私は『石油を 1 リラに』ということも承知できないのだ。誰かが『ヘーゼルナッツを 8 リラに』と言う。空手形を切るのは簡単なのだ」と言ったが、この

²⁹ 2007 年 7 月 3 日 Zaman 紙

<http://www.zaman.com.tr/haber.do?haberno=559144&keyfield=66C4B16E64C4B16B>

言葉は人々を不安にさせる。しかし首相の以下の保証は安堵させた。「遅くとも来週のはじめに、閣議で価格を明示するだろう。今の価格を少し上昇させるよう取り組み始める。」公開する価格はギレスンの選挙に間違いなく影響を与えるだろう。

デモの声に耳を傾けてみよう。ムザフェル・ドマッチさんという市民は「見ろ、どんな価格だと？それを見て投票先を決めよう。」と言う。そばにいるハジハサン村のムスタファ・メルト村長は「ヘーゼルナッツの価格は下がった。しかし前払いもらった」と遮った。チャナクチュ村から来たセイフィ・ユルマズさんはメフメト・アアル党首の「8 リラ」という横断幕を示した。「首相は4 リラすらくれない。どうして2 倍にできようか？つまり嘘をついているのだ。」と述べた。高い価格を期待することに反発する者もいる。それでも一部は8 リラを要求している。

ヘーゼルナッツ危機³⁰が生じた時に存在した厳しい反発の一部はおさまった。しかしギレスンの人々はヘーゼルナッツの価格によって投票先を決めることをやめようとはしない。542 kmの黒海高速道路やその他のことは、大統領選で野党の態度は、必ず有権者に影響を与えるだろう。しかしヘーゼルナッツのかわりを埋め合わせすることはできない。公正発展党のギレスンのリストの先頭の候補であるヌレッティン・ジャンニクリ氏の予測は以下の通りである。「当初の厳しい見方は無い。しかしまだ価格は分からない。」ジャンニクリ氏は、エルドアン首相が夕方に計画している Fiskobirlik への訪問を重要視している。これが和解として捉えられることを信じている。Fiskobirlik が再び機能することがギレスンの人々にとって重要である。貿易産業室長のイブラヒム・ヤマック氏は「公正発展党が重要な擁護者であった。しかしここではヘーゼルナッツの上に経済が成り立った。Fiskobirlik は見捨てられないが、必ず構造改革しなければならない」と言っている。

(後略)

そして7月9日、政府は閣議でヘーゼルナッツの価格を1kgあたり5.15 リラとすることを公表した。³¹

次は、これに対する民主党のメフメト・アアル党首の反応である。

2007年7月16日 Zaman 紙

アアル氏：倉庫のヘーゼルナッツが売れないので7～8 リラになるだろう³²

³⁰ 2006年にFiskobirlikが機能を停止したことを指している。

³¹ 2007年7月10日 Zaman 紙

<http://www.milliyet.com.tr/hukumet-findik-fiyatini-----ytl-olarak-acikladi/ekonomi/haberdetayarsiv/10.07.2007/205434/default.htm>

³² 2007年7月16日 Zaman 紙

民主党のメフメト・アアル党首は、オルドゥでの演説でエルドアン首相を批判した。

オルドゥ共和国広場における党主催の集会で、アアル党首はヘーゼルナッツの価格を綱領として語った。政府がナッツを 5.15 リラとすることに根拠が無いとするアアル氏は、「今年ナッツに価格をつける必要はない。価格はひとりでについてくるものなのだから。倉庫のナッツを売らないと内閣が決定すれば、自動的に 7〜8 リラになるだろう」と言った。「この神聖なる土は、首相に 60 の議員を与えた。そのうちの誰ひとりとして、首相のそばに行ってナッツ生産者の要望を説明しようとしなさい。」と言うアアル党首は以下のように話した。「首相は国会議員ではなく、側近の言うことを聞く。我々は、側近でも、ヨーロッパのチョコレート工場主でも無く、ヘーゼルナッツ園で手の荒れた農民の言うことを聞く。ここでナッツ問題について声を挙げるために会合をすると、どこから間違った情報を得たものか、『PKK がいる』と言う。PKK が黒海に何の用があるというのだ？迷いながら来た者たちは後悔するだろう。（エルドアン首相は）さあ選挙だといって Fiskobirlik に近づいてきた。騙されてはいけない、これは策略だ。誠実でなく、ここでさえ嘘をついている。昨年 Fiskobirlik は債権を購入できなかった。偶然誰かが、Fiskobirlik が債権を購入する際に邪魔をしたと言った。しかしそもそもその可能性はなかった。」

（後略）

こうした攻防を経て迎えた総選挙では、公正発展党の圧勝に終わったのだった。³³この結果は、黒海の住民が同党の現実的路線を評価したものと受け止めることができるだろう。

（５）まとめ

ヘーゼルナッツは公的機関によって、毎年税金によって買い上げられており、その量は消費量を上回っている。毎年借金が膨れ上がり、こうした経済的損失を重視した IMF・世界銀行は、Fiskobirlik の経営を健全化し、国庫金に頼らない構造を目指すよう指導したが、実現しなかった。そして、買い上げ機関が TMO に代替した。

税金の無駄遣いであるという批判を免れない買い取り支援を終わらせられない原因の一つが、選挙対策であろう。ヘーゼルナッツ農家が大多数を占める黒海地方において、高い金額で買い取りを行うことは、彼らの収入を直接に増加させる。実際、選挙運動期間には、

<http://www.zaman.com.tr/haber.do?haberno=564809&keyfield=66C4B16E64C4B16B>

³³ 2007 年 7 月 24 日 Radikal 紙

<http://www.radikal.com.tr/Radikal.aspx?aType=RadikalHaberDetay&ArticleID=820780&Date=14.11.2010&CategoryID=98>

買い取り価格をめぐって与野党攻防が激しくなる。

ただし農家の人々は、政府が高い価格で買い取れないことを認識していると考えられる。代金支払いの延滞も、政府に期待することをやめる一助となっているのだろう。2007年の選挙結果も、民主党のように、提示したヘーゼルナッツの価格が高いからといって勝利できたわけではない。従って、農業票を獲得する手段としてのナッツ買い取り価格は、有効性を失っているのではないだろうか。

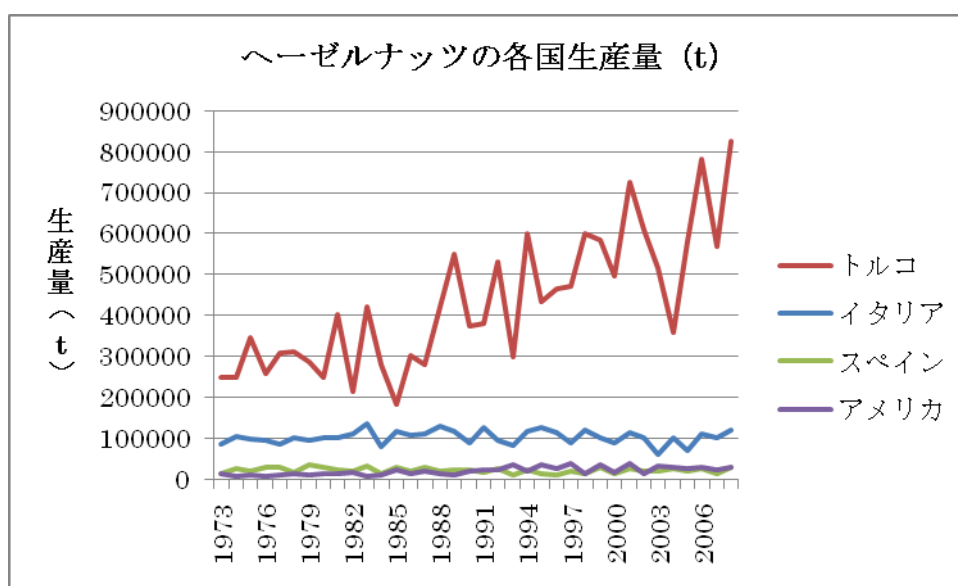
農家のため、余剰在庫縮小のため、政府は他の手段も行使している。それは消費拡大への努力である。以下の章で、過剰生産の実態と、それを解消するための政府の取り組みに焦点を当てたい。

第五章 過剰生産の実態

それでは実際にトルコでヘーゼルナッツがどの程度過剰に生産されているだろうか。グラフを用いて実態を把握したい。

(1) 生産

ヘーゼルナッツは世界各国で生産されており、トルコの他にイタリア、スペイン、アメリカも産地となっている。しかし、以下のグラフから分かるように、トルコでは他国を圧倒的に上回る量が生産されている。しかも、1970年代には約25～30万トンであった生産量が年々増加し、2000年代には変動はあるものの³⁴約60～70万トンが生産されている。現在では全世界の生産量の75%を占めている。

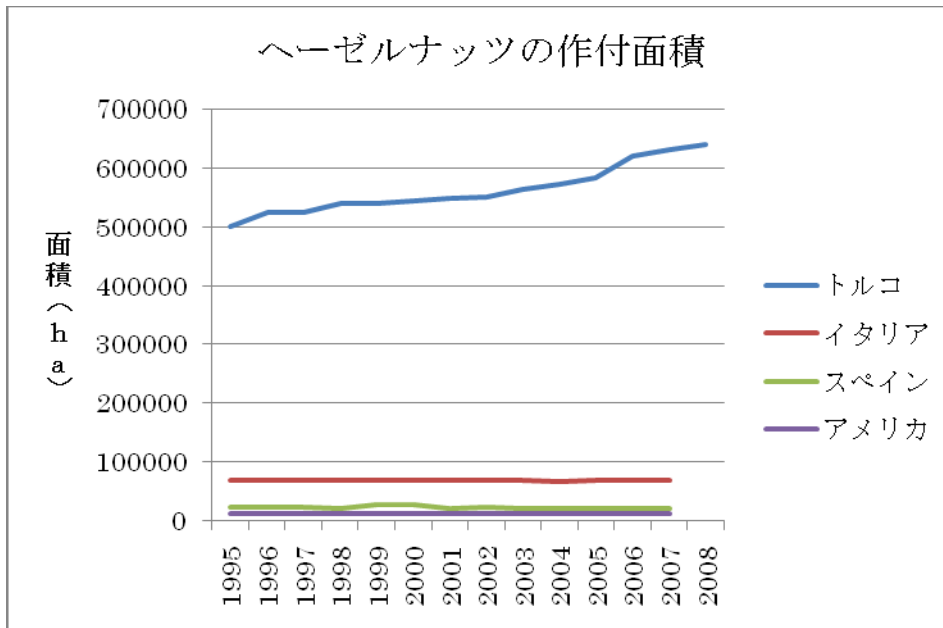


Fiskobirlik ホームページ (<http://www.fiskobirlik.org.tr/>) より作成

そしてこの増加は、次のグラフから分かるように、植樹面積の増加を背景としている。

³⁴ 2004年に急減したのは、その年の春から始まった寒冷気候の影響である。

(2004年9月14日 Zaman 紙 参照
<http://www.zaman.com.tr/haber.do?haberno=90866&keyfield=66C4B16E64C4B16B>)



Fiskobirlik ホームページ (<http://www.fiskobirlik.org.tr/>) より作成

グラフには 1995 年以降の情報しか掲載されていないが、政府は 80 年代の時点でヘーゼルナッツの過剰生産を認識しており、1983 年に第 2844 号ヘーゼルナッツの生産と植樹面積の明示に関する法を定めた。これにより傾斜の緩い土地及び西黒海地方ではハシバミ（ヘーゼルナッツの木）の植樹が禁止された。これに加え、2001 年にはヘーゼルナッツに代わる作物を生産する農家を援助する法律（3438 号）が制定された。しかし、これらの法律は実効性を持たず、当時 40 万ヘクタールであったヘーゼルナッツの生産地は、2009 年には 64 万 2 千ヘクタールに達したという。³⁵

（２）消費

トルコ産ヘーゼルナッツは世界総輸出量の 75% を占めている。年間輸出量のうち 80% はドイツを中心とした EU 諸国へと輸出されている。³⁶ この輸出量と国内消費量を足したものが、世界におけるトルコ産ヘーゼルナッツの消費量である。この量と生産量の間に関係があれば、過剰であるということになる。そのことに着目してグラフを作成すると以下のようになった。

毎年約 30 万トンのヘーゼルナッツが余分に生産されていることが判明する。国内消費量・輸出量ともに増加の傾向は見られるが、毎年はるかに消費量を上回っている。このよ

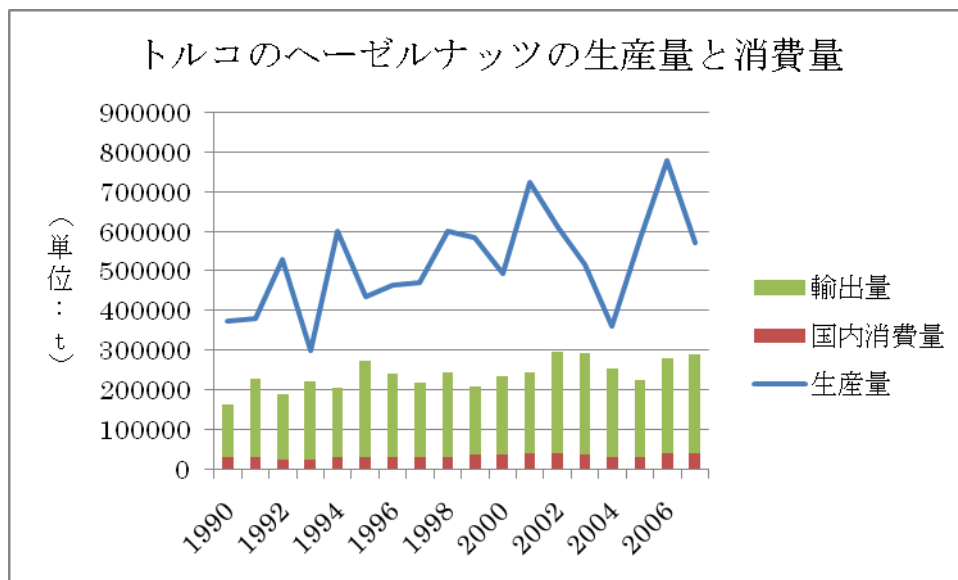
³⁵ 2009 年 7 月 14 日 Zaman 紙

日本語で読む中東メディア（前出）記事 ID: 16948

³⁶ トルコ・ヘーゼルナッツ協会ホームページ (<http://www.turkish-hazelnut.org/>)

Fiskobirlik ホームページ (<http://www.fiskobirlik.org.tr/>)

うに、トルコ産ヘーゼルナッツは過剰に生産されている状態である。



Fiskobirlik ホームページ (<http://www.fiskobirlik.org.tr/>) より作成

こうした実態を受けて、政府は世界におけるトルコ産ヘーゼルナッツの消費拡大を目指している。そのためにヘーゼルナッツ・プロモーション・グループ (Fındık Tanıtım Grubu : 略称 **FTG**) が組織され、各国で活動が行われている。以下で、**FTG** の活動について見ていく。

第六章 ヘーゼルナッツ・プロモーション・グループの活動³⁷

(1) 組織概要

ヘーゼルナッツ・プロモーション・グループ (FTG) は国際貿易参事官から一名、黒海とイスタンブールのヘーゼルナッツ及び関連製品輸出組合代表取締役から、ふさわしいとされる 4 名ずつ、合計 9 名からなる。過剰なヘーゼルナッツがもたらす経済的損失と社会的問題を埋め合わせるため、国内外の消費量を増やす狙いで宣伝、販促といった活動を組織的にを行っている。

1997 年の設立以来、アメリカと国内向けに活動を進める FTG は、2000 年に日本、2001 年に中国で始めた活動を 2005 年にインドに広げ、さらにロシアをも対象とするための市場調査をほぼ終えたところである (2009 年当時)。これらのターゲット市場で行われている宣伝及び販促活動は、トルコの大規模な広告代理店と PR 会社によって進められている。他方、研究開発においては国内外の大学でヘーゼルナッツの栄養価と健康への良い影響に関する調査を進め、より詳細なデータを研究開発に提供している。

FTG はヘーゼルナッツ製品、加工工場、健康効果といった情報提供をするため、1997 年にビデオを製作した。トルコ語版だけでなく、海外の宣伝活動で英語、ドイツ語、中国語、日本語、スペイン語版も用意した。それ以降も、ヘーゼルナッツに関する情報を世界に発信するため、さまざまな映像メディアが作られた。

まずは国内のナッツ消費量を増やすため、1999 年から 2001 年まで断続的に、コマーシャルを放映し、テレビ、映画、ラジオでも呼びかけを行った。またヘーゼルナッツの健康効果を強調するため宣伝雑誌、屋外掲示板、巨大広告で宣伝活動をした。こうした努力のおかげで国内の消費量が 30%増加したという。

ヘーゼルナッツの消費量 (単位: t)

	トルコ	トルコ以外	合計
1990	30000	245000	275000
1991	30000	235000	265000
1992	25000	255000	280000
1993	25000	257000	282000
1994	30000	280000	310000
1995	30000	274000	304000
1996	30000	297000	327000
1997	30000	299000	329000
1998	30000	282000	312000
1999	35000	315000	350000

³⁷ FTG ホームページ (http://www.ftg.org.tr/devam_tur/turkiye.htm)

2000	35000	310000	345000
2001	40000	318000	358000
2002	40000	321000	361000
2003	35000	314000	349000
2004	30000	297000	327000
2005	30000	319250	349250
2006	40000	367655	407655
2007	40000	352719	392719

たしかに表を見ると、1998年までは、国内消費量は92年、93年の2万5千トンを除き、毎年3万トンであったところ、99年、2000年には3万5千トン、2001年、2002年には4万トンと、約30%の伸びを見せた。しかしその後それ以上増加することは無く、国内市場の需要の限界を感じさせる。

（２）世界における活動の具体例

日本における活動を担うのは、在日トルコ大使館商務部内に設置されているトルコ・ヘーゼルナッツ協会である。協会に属する職員数はごくわずかで、実際のプロモーション活動やマーケティング・リサーチは広告代理店を利用して行っている。活動について直接情報収集したいと考え、2010年12月17日、協会の職員の方にご協力頂きお話を伺った。

まず、日本のナッツ業界においてヘーゼルナッツのシェアが低い。ナッツ全体における消費量の割合は、アーモンド（6割）、くるみ（2割）、カシューナッツ（1割5分）であり、ヘーゼルナッツはわずか1.3%であるという。また、協会が外部委託によって行ったマーケティングリサーチによると、日本におけるヘーゼルナッツの認知度はあまり高くないことが分かったという。味にくせのあるヘーゼルナッツは、実そのままの形で食べられるよりも、焼き菓子の中に刻まれて使われるのが一般的だということが、認知度の低さに影響しているといえるだろう。

こうした中、トルコ・ヘーゼルナッツ協会はイベントの企画・運営・企業の商品化に関わるサポート業務・関連情報の提供に携わっている。具体的に、イベントとしては、アジア最大級の食品・飲料の専門展示会であるFoodex第30回国際食品展示会（2005年）に参加するため9㎡のブースを出したり、東京で行われた「日本ケーキショー」に参加したりしている。他に、料理教室、パン焼きセミナーなども開いている。「トルコのヘーゼルナッツ」というパンフレットも作り、生産、種類、効果、栄養や健康に関するデータ、レシピ、デザートといった内容を紹介している。これは『料理王国』という雑誌の付録として発行された。また、明治、森永、フジパン、アフタヌーンティー、ネスレが2005年ヘーゼルナッツを使った新製品を売り出した。

アメリカ、中国、インドにおいても、メディアを通じた広告、イベントでのアピールを

行っている。中国のプロモーションには特色があり、例えばヘーゼルナッツの商品名を公募し、コンテストを行って決定した。トルコ産ヘーゼルナッツを用いた中小企業の取り組みを支援するために「トルコ・ヘーゼルナッツ・プロモーション・センター」を設立し、各都市のスーパーマーケットにナッツを使った商品を提供した。10グラムのヘーゼルナッツを95の小学校に計20万パック提供したり、「こどもの日」に合わせて公園で配布したりした。

前頁の表に戻り、トルコ以外の国によるトルコ産ヘーゼルナッツの消費量に目を向けると、90年代初頭から2000年代半ばまで全体として緩やかに増加を続け、約1.5倍となった。ヘーゼルナッツは他の穀物のように必需品ではないこと、そして伸び幅が大きいことから、この増加は人口増に伴うものとは考えにくい。FTGの宣伝効果の影響によるものと見てよいだろう。ただしこの増加は、トルコの生産量から見て微々たるものであると言わざるを得ない。

結論

農業省は 2010 年の目標を次のように掲げている。「農業と生態系の資源を持続可能な使用に供し、農村の生活水準を向上させ、トルコと世界の市場に求められる信頼性ある素材と品質の高い農産物の実現を保障する。」また、農業省の展望として「農村と都市の双方に利益があり、消費者といつでも会えるほど近く、問題に解決をもたらすような専門性を備え、組織と経営の論理を一致させる完全な組織になる」と述べている。

2004 年から 2009 年まででトルコの GDP は 5590 億リラから 9540 億リラへ、その中で農業によって生み出された価値は 530 億リラから 784 億リラへ 1.48 倍に増加した。GDP のうち農業の占める割合は 9.5%から 8.2%となった。一方、農業省の予算は 2004 年（39 億リラ）から 2010 年（76 億リラ）まで毎年増加し、1.95 倍となっている。³⁸（ちなみに 2007 年は前年より 28.2%も増加している。前述のようにこの年は総選挙にあたっており、農村の支持を得るための大幅な予算増であった可能性がある。）これらの数値から分かるのは、農業の拡大が、生産の効率化ではなく、予算の増大によってもたらされているということだ。IMF の指導むなしく、トルコの農業政策はいまだに政府から農村への経済的支援のもとに成り立っていると言えるだろう。

本稿により、農業を主要な産業とするトルコでは、買い取りを主とした農民の保護政策がとられていることが分かった。黒海地方で生産されたヘーゼルナッツは Fiskobirlik や TMO といった公的機関によって、毎年買い上げられている。その価格は年ごとに変動し、政治的な判断がもとになっていることが、現地の複数の新聞記事によって明らかになった。高い価格に決定することで農家からの支持を獲得できるとは必ずしも言えないが、そうした保護が黒海地方の農家の人々の収入を保障し、ナッツ収穫という文化を守ることににおいて有効であったことは間違いないだろう。従って、買い取りをやめることで、黒海の人々の生活に支障をきたすことになるだろう。

ただし、過剰生産にあるヘーゼルナッツが政府によって買い上げられることが、無駄だと非難されることは免れない。また、FTG も公的な機関であるため、消費を拡大させるにも税金が使われている。この組織に対する予算割り当ては明確ではないものの、全体としてヘーゼルナッツ産業には莫大な公費が投入されており、それに見合った成果が表れているとは言い難いと考ええる。従って、過剰生産の解消を実現するためには今後、生産量を抑制するための手段が、より強力に実施される必要がある、と結論づけられるだろう。

なお、買い取りの対象となった他の農産物との比較をすることで、より正確にヘーゼルナッツ産業を位置づけられると考える。また、トルコ以外の国家の農業支援にも目を向けることで、トルコの農業政策の特徴が浮き彫りになるだろう。これらは、筆者の今後の課題としたい。

³⁸ トルコ農業省ホームページ (<http://www.tarim.gov.tr/>)

参考文献

嶋沢巖「トルコの農村社会と農地改革」護雅夫編『トルコの社会と経済』アジア経済研究所、1971 年

日本貿易振興会編『トルコの農業』海外農業・貿易情報提供委託事業、2001 年 3 月

フランク・B・ギブニー編、堀出一郎発行『ブリタニカ国際大百科事典』第 5 巻、株式会社ティビーエス・ブリタニカ、1988 年

A.Halis Akder, & Haluk Kasnakoğlu, “Tarım” in *Cumhuriyet Dönemi Türkiye Ansiklopedisi* Cilt15, İstanbul : İletişim Yayınları, 1996

Ibrahim Demir, *The firm size, farm size, and transaction costs: The case of hazelnut farms in Turkey*, UMI Dissertation Publishing, 2008

トルコ・ヘーゼルナッツ協会ホームページ (<http://www.turkish-hazelnut.org/>)

日本語で読む中東メディア (http://www.el.tufts.ac.jp/prmeis/news_j.html)

農林水産省ホームページ (<http://www.maff.go.jp/>)

Fiskobirlik ホームページ (<http://www.fiskobirlik.org.tr/>)

FTG ホームページ (<http://www.ftg.org.tr/>)

TMO ホームページ (<http://www.tmo.gov.tr/>)

トラブゾン県ホームページ (<http://www.trabzon.gov.tr/>)

トルコ農業省ホームページ (<http://www.tarim.gov.tr/>)

Hurriyet 紙ホームページ(<http://hurarsiv.hurriyet.com.tr/>)

Milliyet 紙ホームページ(<http://www.milliyet.com.tr/>)

Radikal 紙ホームページ (<http://www.radikal.com.tr/>)

Zaman 紙ホームページ (<http://www.zaman.com.tr/>)